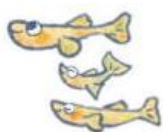
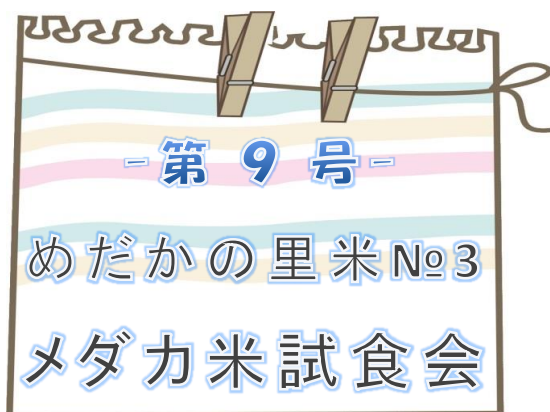


もがみがわ 情報局



今回はめだかの里米作りの最終回。

メダカの住む田んぼで昔ながらの稲作を体験した余目一小六年生のみなさんとメダカ米の生産者である家根合地区のみなさん、庄内総合支庁の方々と一緒にメダカも住んだ田んぼで育ったお米の試食会がありました。



本日のメニュー



- *メダカ米
- *鶏肉の照焼
- *こんにゃくソテー
- *じゃがいもの味噌汁
- *牛乳

NPO法人『家根合生態系保全活動センター』の佐藤昭一理事長より、メダカ米の里である家根合地区で、ほ場整備が始まった際、余目一小の生徒達がこの地区の用水路に絶滅危惧種である“メダカ”がたくさん住んでいることを学び、救出活動行ったことをきっかけに、地元住民や町、県を巻き込んだ保全活動が始まった。メダカの里米を作ることになったきっかけも、『メダカも住める安心安全なお米作り』という子供達のアイデアによるものだったとお話を伺いました。



生徒は自分達の先輩方が絶やさず行ってきたこの活動を、『この地域にメダカの里、そしてメダカ米があることを誇りに思う』と話してくれました。

たくさんのお米が収穫された喜びを感じ、今年もまたおいしいお米が食べられることに改めて感謝することができた試食会となりました。



メダカの里は春の訪れを待ちわびています。。

